

平成29年度 授業改善推進プラン 中学年

	平成28年度授業改善プランの検証と調査結果の分析 (○はおおむねできていること、△は課題があること)	授業改善策 (○良いところを伸ばすための方策、△課題を解決するための方策)
国語	<p>○読書と紹介文の作成など、書く活動と併せて、様々な文章を読む機会を積極的に取り入れたことで、物語の内容の読み取りが目標値を上回った。</p> <p>○漢字の学習を意図的、計画的に行い、習熟を図った結果、前学年の配当漢字はほぼ目標値を達成している。</p> <p>△作文についての問題で、指定された長さで文章を書く力は十分でない。</p> <p>△自分の意見とその理由を区別して書く力は十分でない。</p> <p>△文の構成、とくに主語と述語の関係の理解は十分でない。</p> <p>△ローマ字の読み書きは目標値より低く、継続して指導していく必要がある。</p>	<p>○継続して様々な文章を読む機会を積極的に取り入れ、さらに力を伸ばしていく。</p> <p>○漢字の学習を意図的、計画的に行った結果、ある程度の定着は見られた。小テストや継続的な宿題と合わせて引き続き伸ばしていく。</p> <p>△日常的に字数制限の中で文章を書く場を設けるとともに、書いた文章を読み合っ感想を交流するなど、書く楽しさを感じられるように活動を行っていく。</p> <p>△日常的に意見と理由を区別して書く機会を設け区別が難しい児童にはワークシート等を活用し、区別のしかたを明確にする。</p> <p>△読書と紹介文の作成など、書く活動と併せて、様々な文章を読んでいく機会を積極的に取り入れていく。またワークシート等を活用し、読解の視点を明確に示すようにする。</p> <p>△パワーポイント等による発表など、パソコンでの学習を積極的に導入し、ローマ字を使う必要がある場面を継続的に設定していく。</p>
社会	<p>○昔の道具調べなど、実際に体験したり、調べたりする学習への興味、関心は高い。</p> <p>△身近な社会的事象に対する興味・関心には個人差がある。</p> <p>△提示された資料の中から必要なものを的確に選び、活用していく力が十分ではない。</p> <p>△基礎的・基本的な内容の理解が十分ではない部分がやや多い。</p>	<p>○実物を触ったり、体験したりする学習を多く取り入れる。</p> <p>△学習している内容に合わせて掲示を工夫し興味・関心を高める。地域学習では、見学する時の観点を明確に設定する。また、実生活との関わりをもたせ、考える視点を与える。</p> <p>△資料を活用する機会を増やし、読み取る力や選択する力を伸ばす。</p> <p>△地図やグラフ、表の特徴に着目した学習を充実させ、読み取ったことを書き表したり、話し合ったりする活動を多く取り入れる。</p>
算数	<p>○大きい数や、小数、分数の仕組を正しく理解している。</p> <p>○棒グラフの読み取りや、情報を表に整理する力が付いてきている</p> <p>△長さ・重さなどで量的感覚をもとに推察していく課題では、引き続き指導し習熟させていく必要がある。</p> <p>△2けた以上のかけ算や、けた数が多くくり下がり続けるひき算の正答率が低い。小さな字で書く計算の処理と、頭の中で済ませる処理が課題である。</p> <p>△かけ算やわり算の文章問題で、正しい式を立てることが苦手である。文章に書かれていることを、絵や図に表して思考を整理していくことが課題である。</p>	<p>○単純作業の計算を正しくできる児童が多いので、速くミスなくできるように、反復練習をする。</p> <p>○資料を整理したり、グラフに表したりすることができるので、考察して交流する活動を取り入れ、グラフの特徴や有用性を正しく理解させる。</p> <p>△学習したことを生かして、身の回りのものを実際に測定する等の体験的活動を多く取り入れ、量的感覚を養う。</p> <p>△算数の時間は、はじめの5分～10分を計算タイムとして、その単元の学習内容を問わず、計算力を高める時間を設定し、正確な処理の力を高めていく。</p> <p>△式を立てた後に、式の意味を説明させる時間を確保することで、筋道を立てて考える力を高める。また、考えを交流させる際には、絵や図を積極的に使わせ、説明することに慣れさせていく。</p>
理科	<p>○実験・観察を通して問題解決することに対する意欲が高い。</p> <p>△学習用語等の定着が十分でなく、正しい知識理解につながっていない。</p> <p>△物質・エネルギーの領域、生命・地球の領域ともに、定着が十分でない。輪ゴムの伸びと働く力の大きさの関係など、実験を基に考察してい</p>	<p>○問題解決の際、既習内容を基に実験したり観察したりする過程を意図的・計画的に取り入れる。</p> <p>△生活体験を基にした思考を大切に、理科の思考過程や現象を説明する用語などとの関連を明確に指導し、さらなる定着を図る。</p> <p>△観察・実験を行う際にねらいや視点を明確にして活動を行う。また、結果から考察を行う際に教科</p>

	<p>く力の定着が十分ではない。</p> <p>△ハウセンカの世話など、実際の観察を基にして考察する力の定着が十分とはいえない。</p>	<p>書等を活用し、情報を整理する活動をする。</p> <p>△動植物を観察する機会を多くすると共に、季節の様子とも関連させて相互に自然事象に関する知識の定着を図る。</p>
体 育	<p>○学習カードに記録することにより、努力の成果を認識できた。</p> <p>△友達と教え合ったり見合ったりするときのアドバイスの仕方が身に付いていない。</p> <p>△自分の課題を見付け、それに向けての練習方法を考えたり、練習の場を選んだりすることが難しい。</p>	<p>○児童が学習カードに記録した内容に対して、次の課題を提示させていく。または、アドバイスを記入する。</p> <p>△技能習得へのステップを明確にし、友達と教え合ったり、見合ったりする活動を取り入れる。その際のアドバイスの仕方や見るポイントを指導する。</p> <p>△技能向上のために、ICTを活用して技能のポイントを視覚的に示す。段階的な活動の場を設定することにより、スモールステップで指導する。</p>
音 楽	<p>○鑑賞・表現活動に多くの児童が意欲的に取り組むことができた。</p> <p>△歌唱や器楽の習得に時間がかかる児童がいる。</p> <p>△音の重なりや響きを感じながら、表現の工夫が一層できるようにすることが課題である。</p>	<p>○児童の実態に合わせて学習形態や内容を工夫し、個人レベルで達成度を評価する機会を更に多くする。</p> <p>△個別に音色を聴く機会を持ち、繰り返し練習するようにする。</p> <p>△児童の実態に合わせて表現活動の内容を変え、表現の工夫に興味関心がもてるようにする。</p>
図 工	<p>○感じたことや想像したことから表したいことを見つけることができる。</p> <p>○表し方や材料の違いによるよさや面白さに気づくことができるようにする。</p> <p>△表したいことに合わせて用具を適切に使い、材料の特徴を生かす力が不十分である。</p>	<p>○児童が興味をもつような題材や材料を工夫し、表現する喜びを味わわせる。</p> <p>○鑑賞活動において感じたことや思ったことを話し合ったり、表現の意図を説明したりする等の言語活動をさらに充実させる。</p> <p>△用具を適切に使いこなせるよう身に付けるポイントを明確にして指導し、道具を使う時間を十分にとる。</p>